

Title	Values of the Historic Urban Form of Skopje's Old Bazaar Based on Analysis of the Ottoman Urban Strategy
Author(s)	Krstikj, Aleksandra
Citation	
Issue Date	
Text Version	ETD
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/34483">https://doi.org/10.18910/34483</a>
DOI	10.18910/34483
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

## 論文内容の要旨

氏 名 ( Krstikj, Aleksandra (クルステイック アレクサンドラ) )	
論文題名	<p>Values of the Historic Urban Form of Skopje's Old Bazaar Based on Analysis of the Ottoman Urban Strategy</p> <p>(オスマン帝国の都市戦略分析に基づくスコピエ・オールド・バザールの都市形態における歴史的価値)</p>
<p>歴史的な中心市街地が、そのときどきの都市の経済的社会的中心でもあるときには、新たな都市活動が求める開発の圧力にさらされる。本研究は、開発途上国の中心都市のように開発圧力が大きい歴史的市街地において、新たな開発や建物更新における歴史性保全のための手法開発をめざすものである。具体的には、現在、都市開発が急速に進んでいるマケドニアの首都スコピエに位置する「スコピエ・オールド・バザール」を事例地区とし、オールド・バザール地区の歴史的空間の成り立ちと空間構成の分析をとおして、歴史性を評価する価値概念を考察して保全すべき歴史性を確定するとともに、得られた知見にもとづき開発における歴史性保全ガイドラインの基本的考え方を提示することを目的とした。</p> <p>まず、第1章では、こうした研究の目的およびその背景、既往研究の評価を行った。</p> <p>第2章では、文献調査により研究対象であるスコピエ・オールド・バザールの形成過程について、基礎的分析を行った。ギリシャから中東、および東欧、中欧を結ぶ広域ネットワークの結節点に位置するスコピエはオスマン帝国の戦略拠点であり、その中心市街地としてオールド・バザールは15世紀から16世紀に開発された。地理的条件、オスマンの都市戦略、イスラムの都市づくりの基本概念にもとづいて、バザールの形成過程を明らかにした。</p> <p>第3章では、①オスマン都市戦略にもとづく場所の意味、②バザールの主要な空間構成要素である店舗の形態変遷、③バザールの街区空間の形成過程に着目し、現在のスコピエ・オールド・バザールの空間形態を特徴づける歴史性の価値概念について現地調査と文献調査により分析した。これら都市空間の成り立ちの歴史性に着目することにより、オスマン都市を規定する施設立地(場所)の意味、ヴァナキユラーな店舗の変容に継承されているデザイン、バザールの空間を成り立たせている空間のしくみ(街区の成り立ち)について、以下に示す歴史性の価値を明らかにした。</p> <p>1) モスクやバザールを構成する主要公共施設の配置は、オスマンの都市戦略に基づいており、広域ネットワークとの結節手法と合わせて都市の中心性を規定し、市街化の外縁位置を示す。こうした施設配置の原理に基づき現在の都市空間では見えにくくなっているバザールにおける場所の歴史的意味を特定した。</p> <p>2) バザールを構成する店舗の構成要素にもとづき現在の店舗ユニットの類型化を行い、その特性を分析することから、オーセンティシティ(歴史的価値の本質)を示す基本型からの変容とその時代性を読み取ることができた。構成要素のデザインは歴史性を特徴づける指標となる。</p> <p>3) バザールを構成する街区は、その成り立ちからオスマンの都市戦略にもとづき配置された公共施設を核とする街区とそれ以外の街区に類型され、都市機能の変化と地区内の主要路線との関係から変容していくことがわかった。現在の街区は、その成り立ちにもとづき歴史的価値を位置づけることができる。</p> <p>第4章では、スコピエにおけるオールド・バザールの中心性を分析した。オスマン帝国から独立後の都市開発の考え方を示す社会主義計画、震災復興計画、近代都市マスタープランの3つの計画に着目し、広域ネットワーク計画と機能配置計画から都市の中心性を分析し、スコピエの近代化過程においてバザールがスコピエにおける中心性の喪失の過程と背景を明らかにした。</p> <p>第5章では、2～4章で明らかにした調査分析結果を総合的にまとめ考察することにより、スコピエ・オールド・バザールの歴史性の価値概念を提示し、新たな開発や建物更新において、オスマン都市戦略にもとづく場所の意味の顕在化と保全、空間の成り立ちと変容の特性にもとづく街区や店舗の歴史性を保全することが、近代化を許容しつつ歴史的市街地のオーセンティシティを維持する基本となることを提案した。</p>	

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 ( Krstikj, Aleksandra ( クルステイック アレクサンドラ ) )			
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主 査	准教授	小 浦 久子
	副 査	教授	横 田 隆司
	副 査	教授	阿 部 浩和

## 論文審査の結果の要旨

歴史的中心市街地が、そのときどきの都市の経済的社会的中心でもあるときには、新たな都市活動が求める開発の圧力にさらされる。本研究は、開発途上国の中心都市のように開発圧力が大きい歴史的市街地において、新たな開発や建物更新における歴史性保全のための計画手法の開発をめざすものである。具体的には、現在、都市開発が急速に進んでいるマケドニアの首都スコピエに位置する「スコピエ・オールド・バザール」を事例地区とし、オールド・バザール地区の歴史的空間の成り立ちと空間構成の分析にもとづく歴史性の評価の考え方を提示し、保全すべき歴史性の価値を確定するとともに、その価値を維持する開発マネジメントに資する歴史性保全ガイドラインの基本的考え方を提示することを目的としている。

まず、第1章では、研究の目的およびその背景を提示するとともに、既往研究を検討することにより、本研究の位置づけを行っている。

第2章では、文献調査により研究対象であるスコピエ・オールド・バザールの形成過程について、基礎的分析を行っている。文献調査より、ギリシャから中東、および東欧、中欧を結ぶ広域ネットワークの結節点に位置するスコピエはオスマン帝国の戦略拠点であり、その中心市街地として15世紀から16世紀にかけてオールド・バザールが開発されたことを示し、地理的条件、オスマンの都市戦略、イスラムの都市づくりの基本概念から、オールド・バザールの形成過程を分析している。

第3章では、①オスマン都市戦略にもとづく場所の意味、②バザールの主要な空間構成要素である店舗の形態変遷、③バザールの街区空間の形成過程に着目し、現地調査と文献調査により、現在のスコピエ・オールド・バザールの空間形態を特徴づける歴史性について検討している。その結果、都市空間の成り立ちに着目することにより、オスマン都市の市街地構造を規定する公共施設立地による「場所の意味性」、バザールを構成するヴァナキュラーな店舗に継承されている「デザイン特性」、バザール空間を特徴づける街区の成り立ちに見られる「空間のしくみ」において、以下に示す保全すべき歴史性を特定している。

- 1) モスクやバザールを構成する主要公共施設の配置は、オスマンの都市戦略に基づいており、広域ネットワークとの結節手法と合わせて都市の中心性を規定し、市街化の外縁位置を示す。こうした施設配置の原理に基づき場所の歴史的意味を特定し、その意味に保全すべき価値があることを提示している。
- 2) 現在のバザールを構成する店舗ユニットを類型化し、その特性分析により、オーセンティシティ（本質的価値）を示す基本型からの変容とその時代性を示した。構成要素のデザインは時代性を示すが、規模・配置・形態は基本型を維持するところに、都市空間の構成要単位としての店舗ユニットの歴史的固有性を確認している。
- 3) バザールを構成する街区は、その成り立ちからオスマンの都市戦略にもとづき配置された公共施設を核とする街区とそれ以外の街区に類型され、都市機能の変化と地区内の主要路線との関係から変容していくことがわかった。現在の街区は、その成り立ちと空間構成にもとづき歴史的価値を特定することができる。

第4章では、オールド・バザールのスコピエにおける中心性について分析している。オスマン帝国から独立後の都市開発の考え方を示す社会主義計画、震災復興計画、近代都市マスタープランの3つの計画に着目し、広域ネットワーク計画と機能配置計画から都市の計画的中心性の概念とその位置および空間的特性を分析し、スコピエの近代化過程においてバザールがスコピエにおける中心性を喪失していく過程とその計画的背景を明らかにしている。

第5章では、2～4章で明らかにした調査分析結果を総合的にまとめ考察することにより、スコピエ・オールド・バザールの都市空間の歴史性概念を明らかにしている。スコピエ・オールド・バザールの保全計画においては、①オスマン都市戦略にもとづく場所の意味、②都市空間を構成する基本要素である店舗の規模・配置の持続とデザインの時代性、③公共施設と店舗が構成する歴史的街区の空間構造を、保全すべき都市空間の歴史的価値と特定し、その保全を目的とした開発管理の必要を提示している。

公聴会では、近代化が進むスコピエにおいて保全すべき歴史的市街地における開発の考え方について議論が行われた。バザールを構成する店舗の開発では、新しいデザインや材料の使用はある程度許容されるものの、特定された歴史的価値を有する都市空間の特性や空間構成のしくみと統合化するように、個々の建築や開発を調整し開発管理する保全手法の開発が課題であること、また、こうした保全計画の考え方を伝えるためのガイドライン策定への継続的取り組みが必要であることを確認するに至った。

以上のように、本論文は、商業地として継続的に変化が発生する歴史的都市市街地の保全において、都市空間の成り立ちに着目し、その歴史性を特徴づける場所の意味と空間特性に保全すべき歴史的価値を特定し、市街地の変化を調整しつつ都市空間の歴史性を保全する計画論を提示している。これは、歴史的市街地における持続可能な開発と都市空間の歴史性の保全計画における新たな計画管理手法の展開に寄与するところが大きく、その成果は建築計画学・都市計画学の研究発展に貢献するものである。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。